

運輸政策研究所 第39回 研究報告会

世界遺産所在地における観光振興 のあり方に関する研究

A Study on Tourism Promotion
in World Heritage Sites

平成28年5月27日

主任研究員 小室 充弘

Mitsuhiro Komuro

今回の報告内容

1. 研究の背景と目的
2. 世界遺産観光の実証分析
特定の世界遺産を対象としたケーススタディ
3. 実証分析の補強
有識者、業界関係者へのヒアリング
4. 世界遺産所在地の持続的な観光振興のあり方

1. 研究の背景と目的

地方創生が重要な政策課題
観光は、その実現に極めて有効な手法

全国各地で、地域固有の資源を活用した観光振興の取組み

ユネスコの世界遺産が観光資源として注目を集める。
例えば、富岡製糸場では登録を契機に来訪者が4倍増。

- 登録後の需要増は一過性のものではないのか。
- 観光振興と遺産保全・住民の生活環境は両立するのか。

世界遺産所在地における持続的な観光振興のあり方の検討

2. 世界遺産観光の実証分析

(1) 研究対象の絞り込み

(2) 石見銀山のケーススタディ

(3) 富岡製糸場のケーススタディ

(4) 石見銀山と富岡製糸場の比較分析

(1) 研究対象の絞り込み

①登録後の観光客数の変化に基づく世界遺産の類型化

A: 登録後に観光客数が大幅に増加

- ・屋久島、白神山地、白川郷・五箇山、紀伊山地の霊場と参詣道
石見銀山、富岡製糸場
- ・登録前は観光地としては低知名度。登録により人気が急上昇。

B: 登録後も観光客数が堅調に推移又は下げ止まり

- ・京都、奈良、日光、富士山
- ・日本を代表する著名な観光地

C: 登録後も観光客数が減少

- ・法隆寺、姫路城、厳島神社、原爆ドーム、知床
- ・Bタイプほどではないが、登録前より著名な観光地

政策提言の有用性の観点からAタイプの世界遺産に焦点

②Aタイプ世界遺産の登録後の状況(文献調査)

○観光客数は、長期的には、減少・横ばいに転じる傾向。
しかも登録からピークに至るまでの期間が次第に縮小。

・屋久島、白神山地、白川郷(1990年代登録)	10年以上
・紀伊山地の霊場と参詣道(2003年登録)	3年
・石見銀山(2007年登録)	登録翌年
・富岡製糸場(2014年登録)	登録年

○屋久島のように宿泊客の多い所もあるが、白川郷、石見銀山、富岡製糸場は、短時間滞在の通過型観光客が主体。

- 観光客の増加による遺産保全、住民生活への負の影響も発生
- ・特に、山間部の世界遺産で顕在化
石見銀山:遺産保全等のため路線バスを廃止→観光客が減少
(ジレンマの存在)
 - ・これに対し、市街地所在の富岡製糸場では、大きな問題は報告されていない。

③ケーススタディの対象の選定

「石見銀山」と「富岡製糸場」をケーススタディの対象に選定

(共通事項)

- 産業遺産。登録後に短期間でピークに到達。
- 所在地は観光資源に恵まれていない。
- 滞在時間の短い通過型観光地。(宿泊施設は少ない。)



- メジャーでない観光地が世界遺産登録を受けた場合の持続的な観光振興のあり方を検討する事例として最適

- 立地条件、アクセス、観光客の受入容量等では差異も存在



- 石見銀山(山間部立地型)と富岡製糸場(市街地立地型)の双方で行うことにより、持続的な観光振興の検討をより深度化できる。

石見銀山と富岡製糸場の差異

石見銀山

島根県大田市(人口4万人)

市内山間部の大森地区
人口は400人

大都市からのアクセスは不便

観光客の受入容量は小さい

地区住民の意識は高い

富岡製糸場

群馬県富岡市(人口5万人)

市の中心部
1万人以上の人口集積

東京からアクセスしやすい

観光客の受入容量は大きい

市民の中には意識の低い層
も存在

(2) 石見銀山のケーススタディ

①世界遺産「石見銀山と文化的景観」の概要



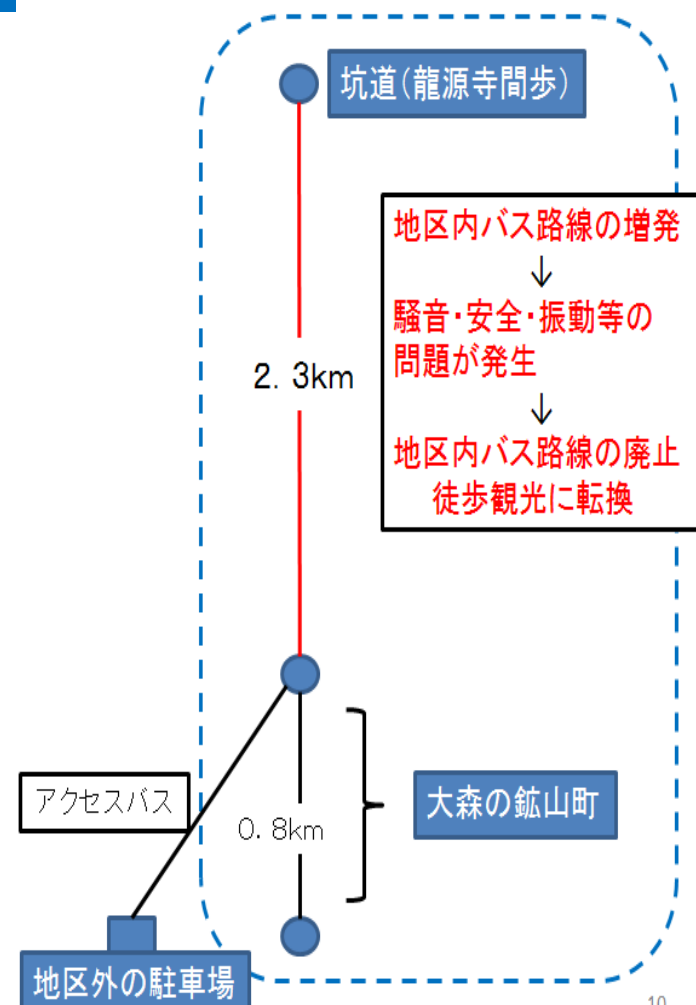
大田市: 約4万人

遺産所在の大森地区
: 約400人

坑道(龍源寺間歩)

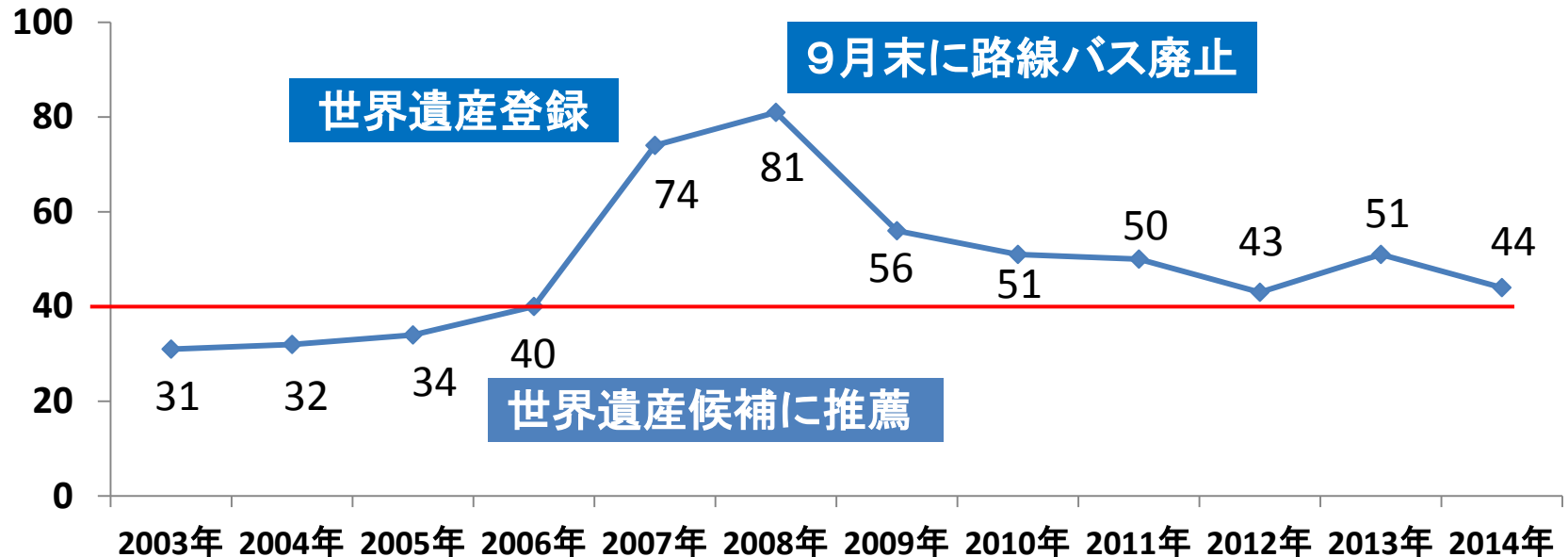


鉱山町の町並み



石見銀山(大森地区)の入込観光客数の推移

万人



※大田市資料に基づき作成

世界遺産登録後の大森地区の動向

- 400人以上の人口を維持(大田市全体は1割減)
- 若年者が地場企業に就職(Iターン、Uターン)
- 観光関連の店舗の増加(撤退した店舗もある。)

②ケーススタディの結果概要

(供給側)

○地方自治体ヒアリング(大田市、島根県)

- ・世界遺産ブランドで一定の需要は確保できるとの認識

○地域住民・地場企業インタビュー

- ・観光客の適正規模、地区内の移動手段、観光客への課金の要否等について意見の差異が存在。

(需要側)

○観光客アンケート(個人465人、団体236人)

- ・初来訪者が主体で、リピーターは少ない。
- ・観光の満足度はかなり高いが、再訪問希望はやや低い。
- ・徒歩主体の移動については、支持と見直しが拮抗

- ・リピーターの取り込み等に、もっと戦略的に取り組むことが必要
- ・地域関係者の対応体制の未整備が大きな問題

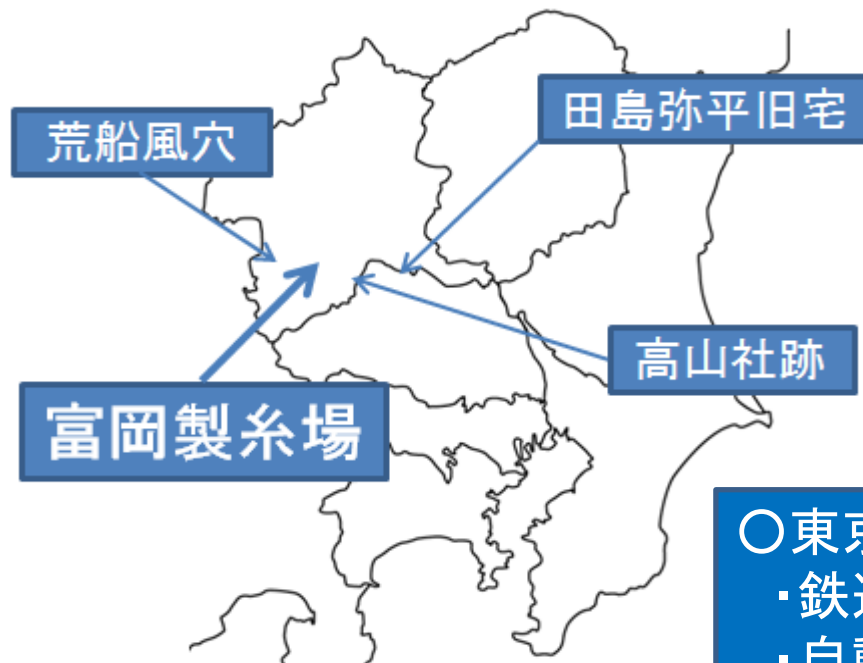
(3) 富岡製糸場のケーススタディ

①世界遺産「富岡製糸場と絹産業関連遺産」の概要

○富岡製糸場は群馬県富岡市に所在

このほか、田島弥平旧宅(藤岡市)、高山社跡(伊勢崎市)、
荒船風穴(下仁田町)で世界遺産を構成

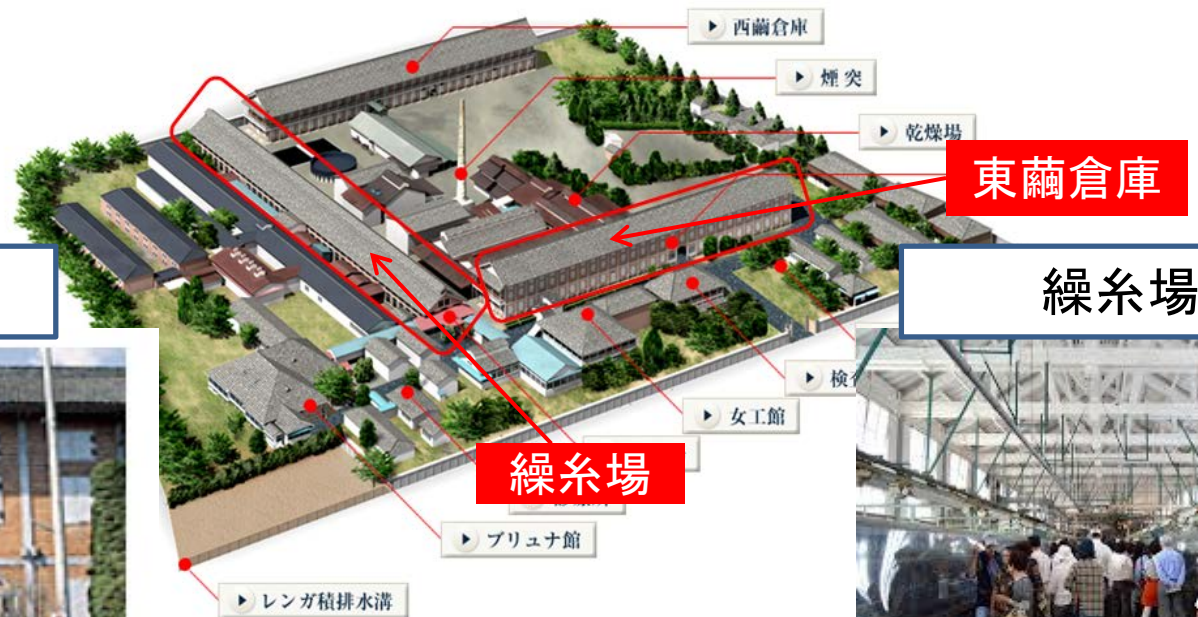
○2014年の来訪者数は、富岡製糸場130万人に対し、他は
数万人規模。



○東京から富岡製糸場までのアクセス
・鉄道(新幹線・上信電鉄)95分
・自動車(上信越道経由)75分

富岡製糸場の概況

- 1872年に日本初の器械製糸工場として創設、1987年まで操業
- 敷地面積5.5ha。内部公開は2棟のみ（東繭倉庫、繰糸場）
- 修復工事の終了、全面公開には、30年、100億円を要する。
（国1／2、県と市が各1／4）
- 昨年4月には入場料を値上げ（個人500円→1000円）



東繭倉庫

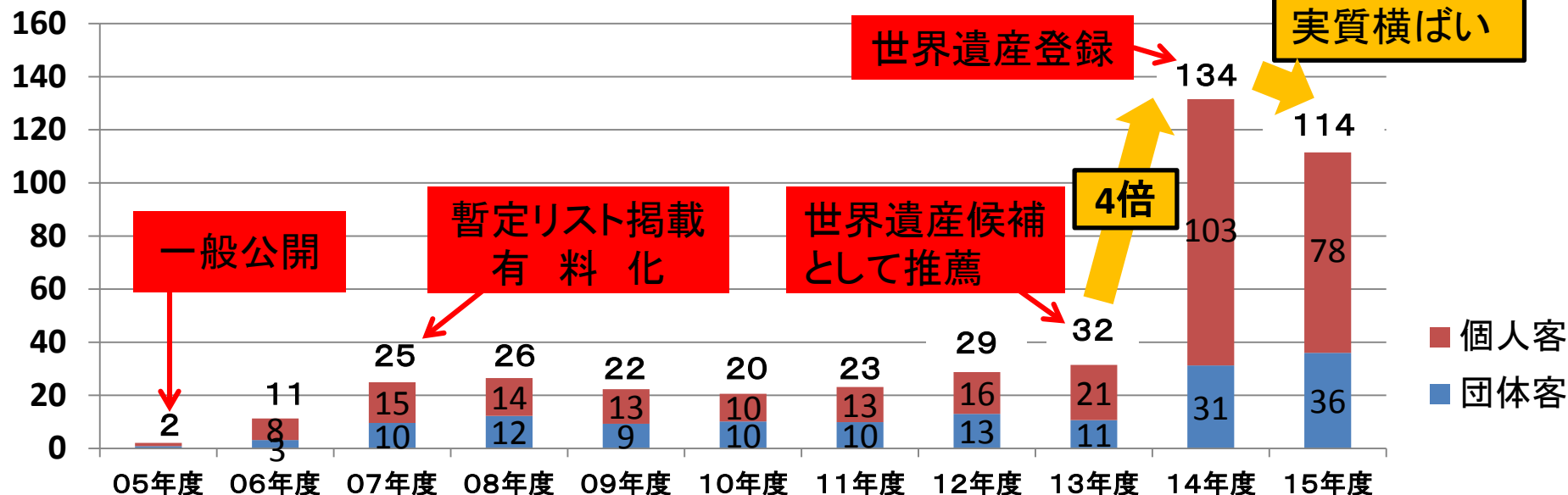


繰糸場



単位: 万人

製糸場来訪者数の推移



※富岡市資料に基づき作成

富岡市(中心部)の動向

- 中心部商店街の衰退に歯止め。
- 土産物・特産品の開発・PR
(富岡シルクの衣料品・雑貨、シルク入りの麺・菓子・石けん等)
- 観光消費は、あまり伸びていないが、上信電鉄は6千万円の増収

②供給側の視点

②ー1 地方自治体ヒアリング(富岡市、群馬県)

◎世界遺産観光の振興について

- 世界遺産ブームによる来訪者の急増は永続しない。
滞在時間が短いので、観光消費があまり伸びていない。



- 長期・安定的な需要の確保(富岡市の目標は100万人の維持)
まちなか回遊で滞在時間を延長し、消費活動を活性化



- 現状では、リピーター確保等に向けた取組みの内容等が
明確に整理されていない。

◎観光と遺産保全・住民生活の間に大きな問題は生じていない。

建物内部は限定公開。敷地が広い。
渋滞緩和のため、駐車場の分散、交通規制の導入

◎世界遺産への意識の低い住民層も存在。

→一般住民の意識啓発、学校での世界遺産学習が重要

②ー2 地域関係者インタビュー

◎インタビュー対象者

○まちづくり会社会長(商工会議所会頭)

○NPO理事長(世界遺産登録運動の中心的人物)

○地場の旅行会社の代表者(業界団体の県支部長等を兼務)

◎各者とも基本的な問題認識は地方自治体と同じ。

○観光振興

- ・登録後の需要増は一過性。長期・安定的な需要の確保が課題。
- ・滞在時間延長により消費活動の活性化を図ることも重要。



- ・周辺市街地に絹産業博物館を開設する等の積極的な提案もあるが、実現の目途は立っていない。

○観光と遺産保全、住民生活の間で大きな問題は生じていない。

○住民全体の意識向上が必要

住民の誇り・知見の高さ→観光客に好印象→リピーター化

③需要側の視点 ～観光客アンケート～

◎アンケートの概要

○実施時期、対象者

- ・2016年3月3日(木)～6日(日)
- ・富岡製糸場の来訪者(日本人)

○実施方法、サンプル数

- ・調査員による聞き取り、調査票の配布・郵送回収を併用
- ・861人(個人客682人、団体客179人)

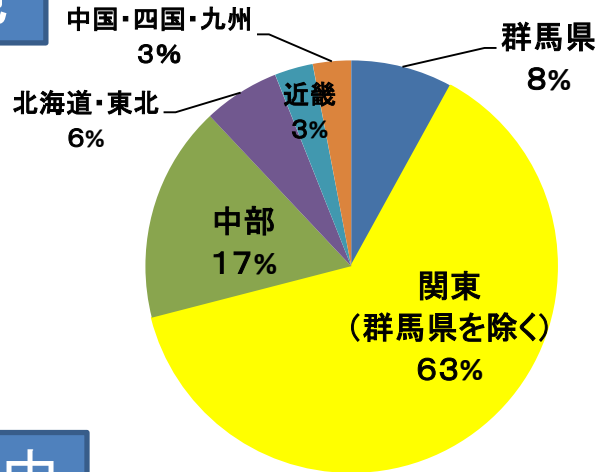
○調査項目

- ・来訪者の属性、訪問実態、満足度
- ・富岡製糸場の再訪問希望の有無、その理由
- ・遺産保全等のための規制・負担に対する意識

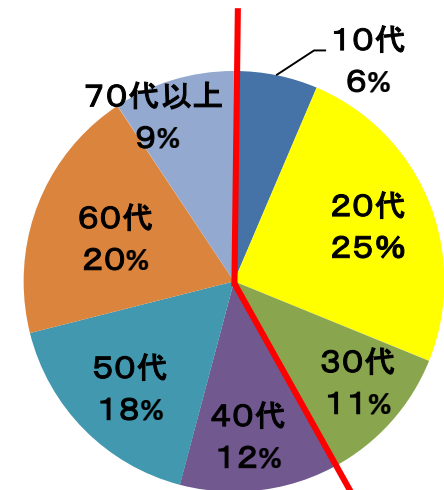
◎来訪者の属性(居住地、年令、訪問理由、訪問回数)

- ・世界遺産ブランドにより関東を中心に全国から来訪
- ・中高年・シニア層が6割を占めるが、年代別では20代が最多

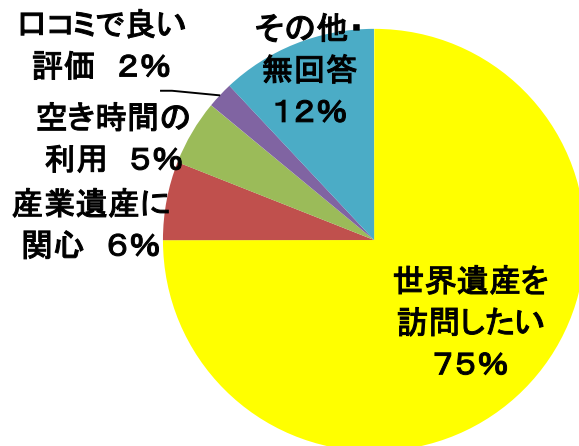
居住地



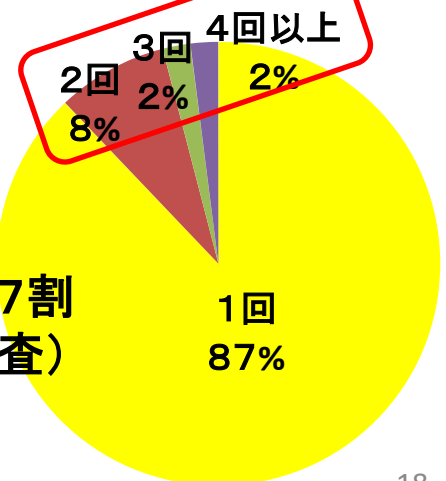
年令



訪問理由



訪問回数



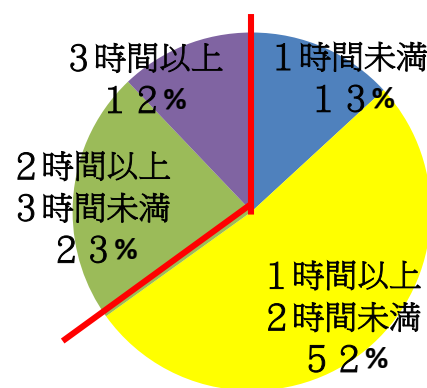
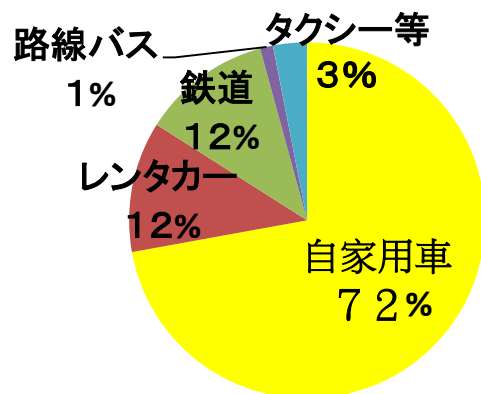
リピーター率は1割

石見銀山2割
主要観光地の平均値 7割
(2009年度・観光庁調査)

◎訪問実態(利用交通手段、滞在時間、旅行形態、立寄り場所)

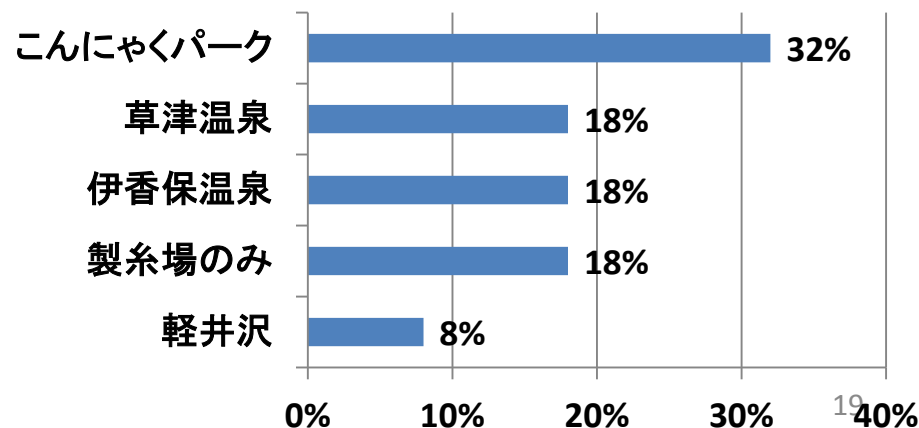
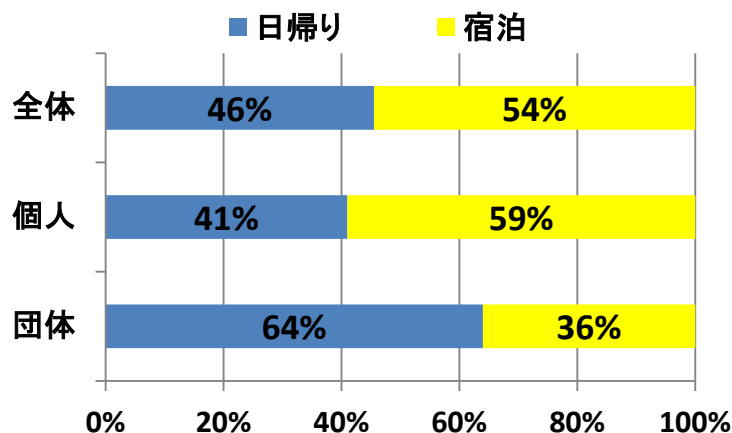
○個人客は7割がマイカーを利用。団体客は全て観光バス。

○6. 5割が2時間未満の滞在＝製糸場の見学のみで他に移動



○旅行の形態は、宿泊旅行が日帰り旅行よりも、やや多い。

○立寄り場所は、こんにやくパークが最多。群馬県内の著名な温泉（草津、伊香保）、富岡製糸場の訪問のみが続く。



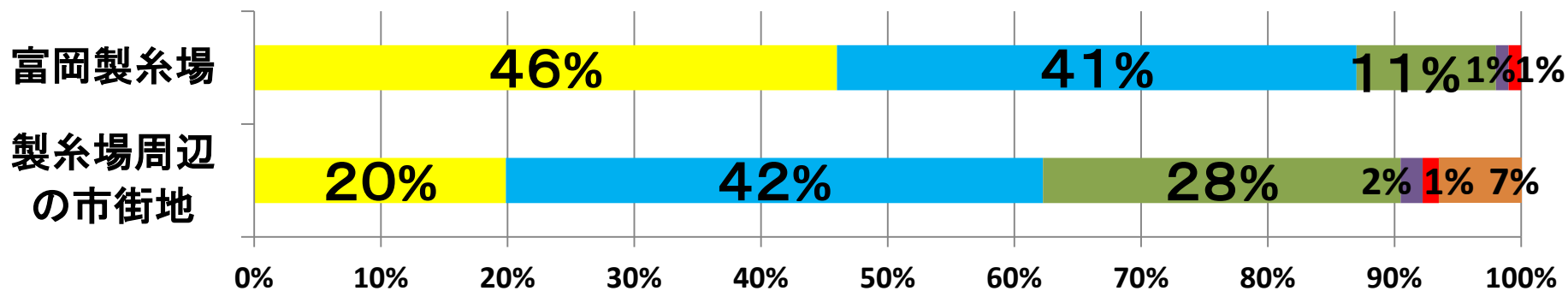
◎満足度と再訪問希望－１

○世界遺産「富岡製糸場」の満足度は高いが、「製糸場周辺の市街地」の満足度は、やや低い。

○富岡製糸場の再訪問希望も、やや低い。

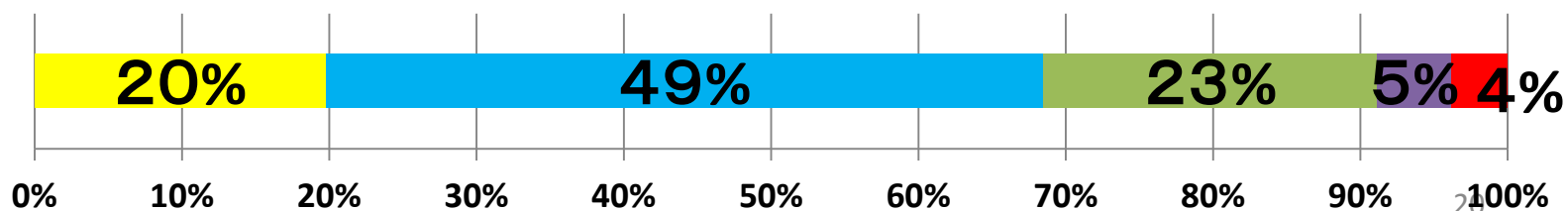
来訪者の満足度(N=861)

■ とても満足した ■ やや満足した ■ どちらでもない ■ やや不満足だった ■ 不満足だった ■ 無回答



富岡製糸場の再訪問希望(N=861)

■ ぜひしたい ■ できればしたい ■ どちらでもない ■ あまりしたいと思わない ■ したいと思わない

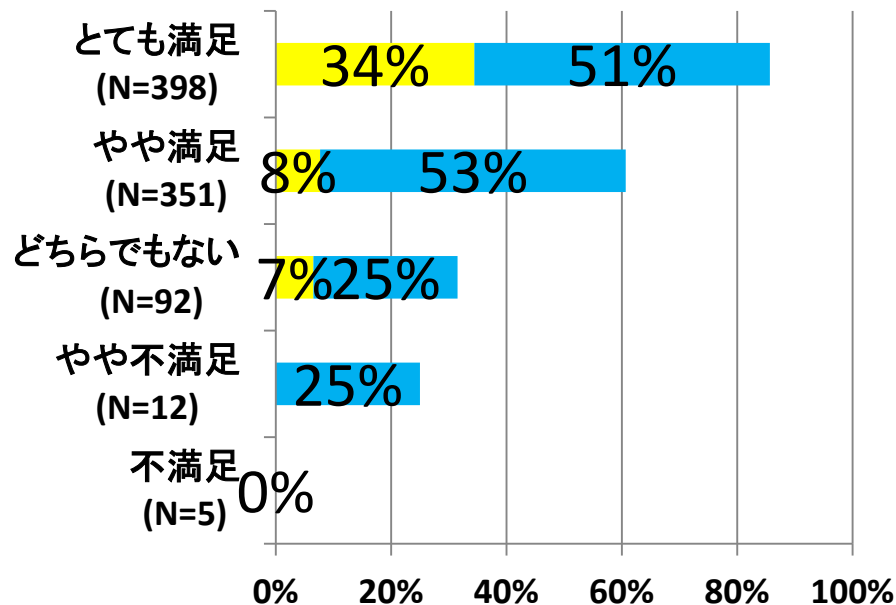


◎満足度と再訪問希望－２

○来訪者の満足度が高まるほど、再訪問希望の割合が増える。
○「とても満足した」と「やや満足した」では、「ぜひ再訪問したい」の割合に大きな差異。

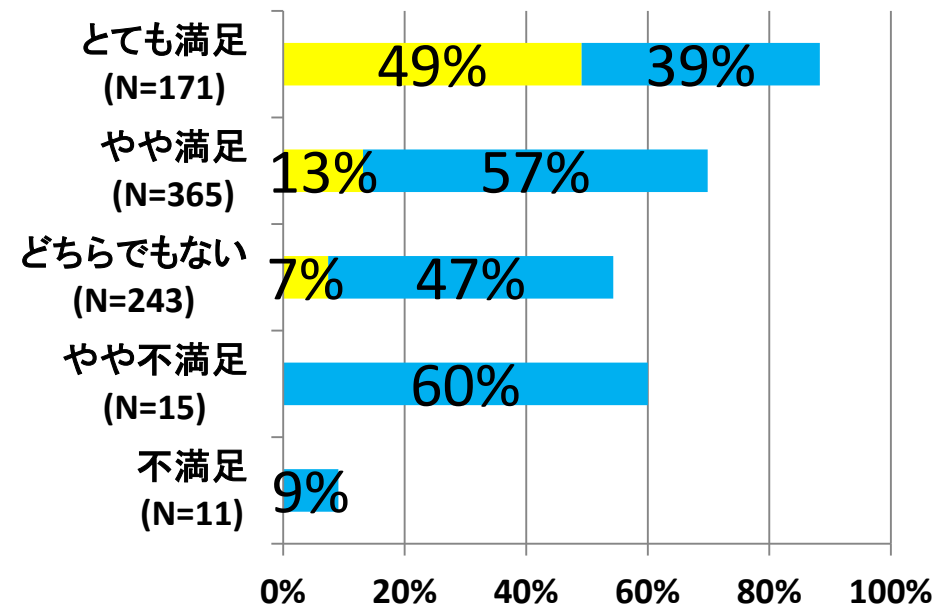
富岡製糸場の満足度別の
再訪問希望割合

■ ぜひ再訪問したい ■ できれば再訪問したい



周辺市街地の満足度別の
再訪問希望割合

■ ぜひ再訪問したい ■ できれば再訪問したい

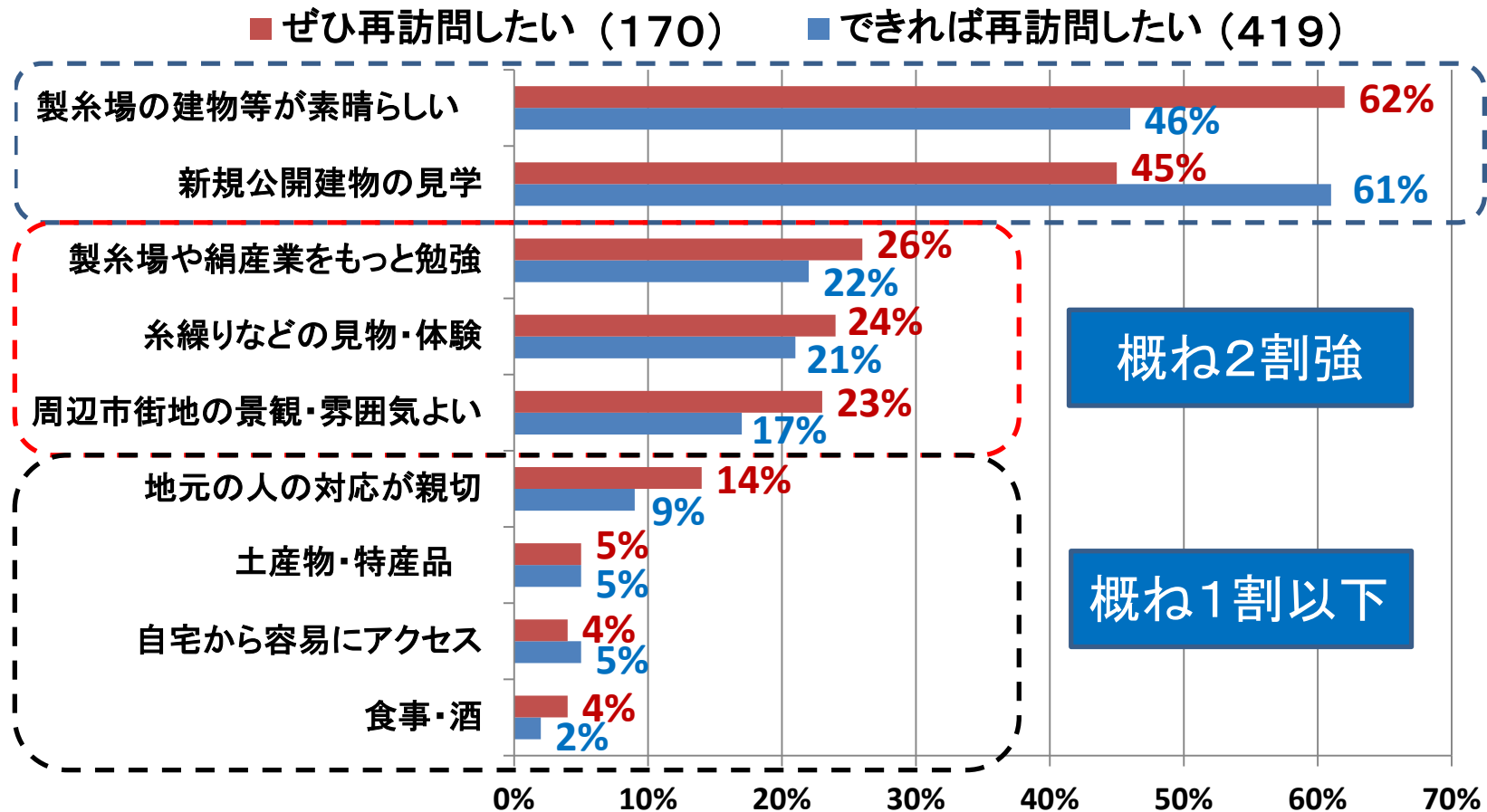


◎再訪問したい理由(再訪問希望者に確認)

ぜひ再訪問したい

製糸場の建物等が素晴らしい(6割) > 新規公開建物の見学(4.5割)
できれば再訪問したい

新規公開建物の見学(6割) > 製糸場の建物等が素晴らしい(4.5割)

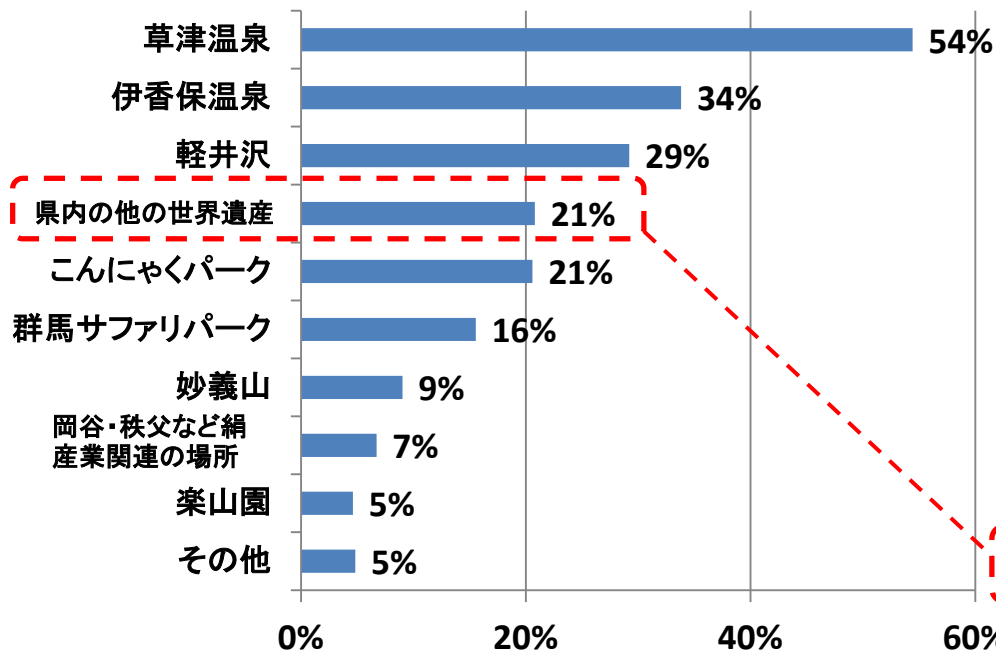


1人5項目まで選択できる。

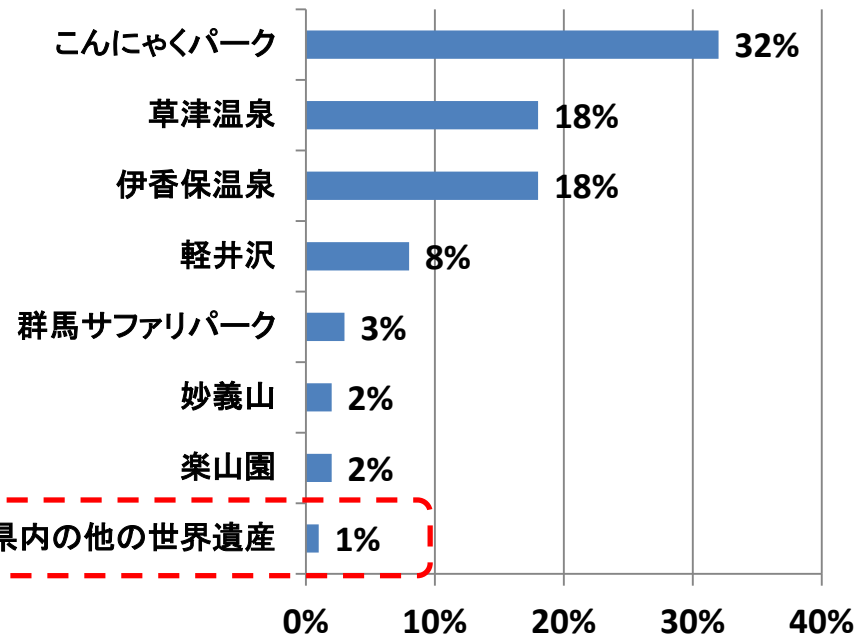
◎再訪問時の旅行形態等(再訪問希望者に確認)

- 旅行形態は、5割が「他の観光地とセットでの宿泊旅行」、3割が「他の観光地とセットでの日帰り旅行」を希望
- 旅行時期は、6割が「4～6月(GWを除く)」を希望＝閑散期

○セットで回りたい観光地(N=476)



今回の旅行での立寄り先(N=861)



宿泊旅行希望者

①草津温泉 ②伊香保温泉 ③軽井沢

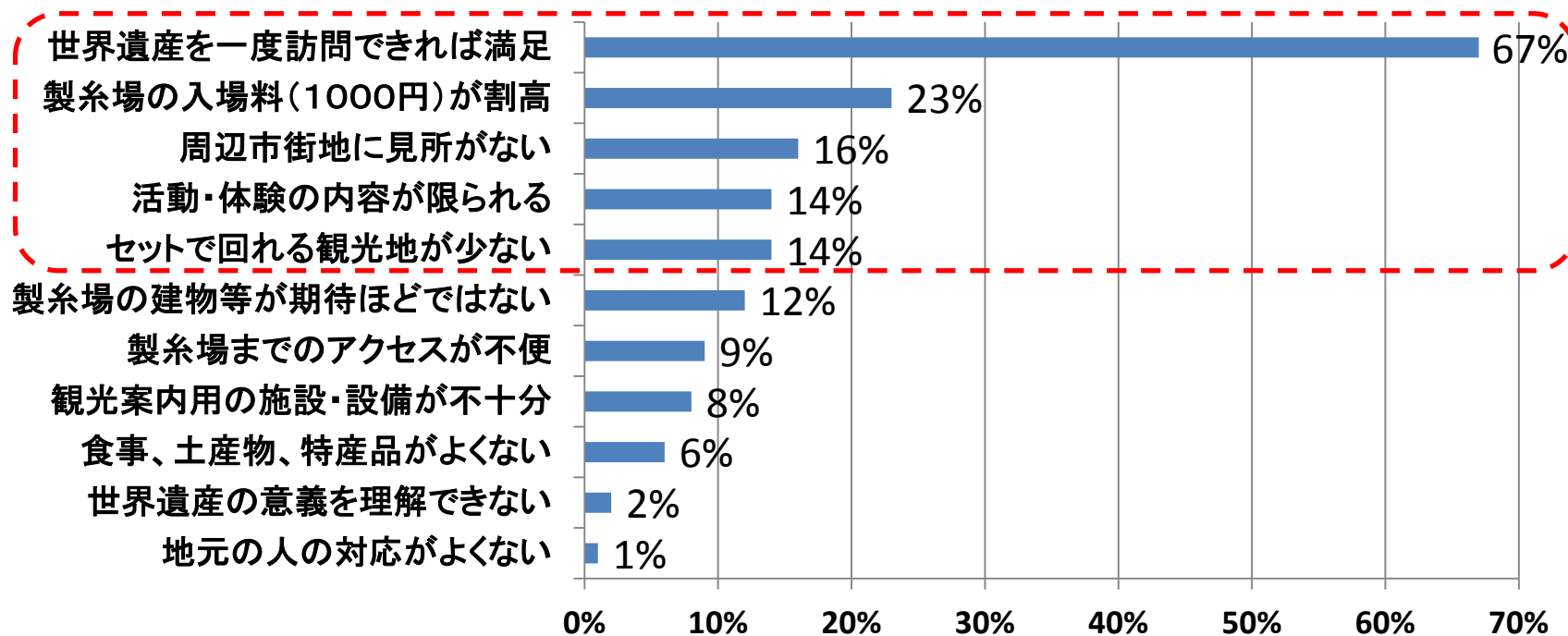
日帰り旅行希望者

①草津温泉 ②こんにゃくパーク ③県内の他の世界遺産

◎再訪問を希望しない理由(再訪問を希望しない人に確認)

- 「世界遺産を一度訪問できれば満足」が圧倒的に多い(7割)
- 「入場料が割高」も2割(値上げの影響+限定公開への不満)
- 「周辺市街地に見所がない」「活動・体験内容の限定」「セットで回れる観光地が少ない」が15%前後

「再訪問したいと思わない」「あまり再訪問したいと思わない」「どちらでもない」の回答者に確認(N=271)

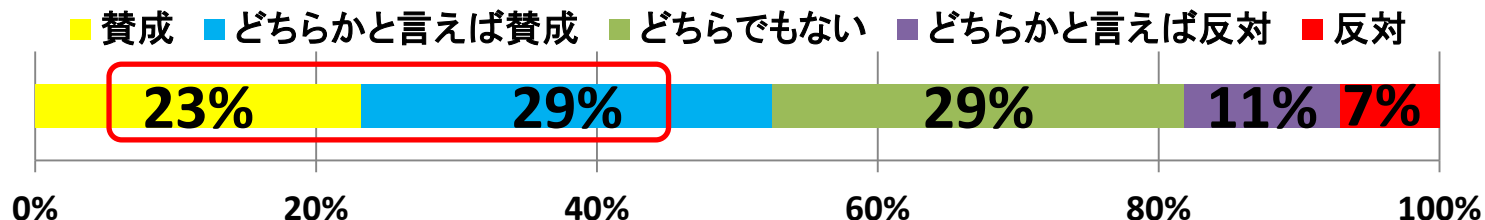


1人5項目まで選択できる。

◎遺産保全のための規制・負担に対する意識

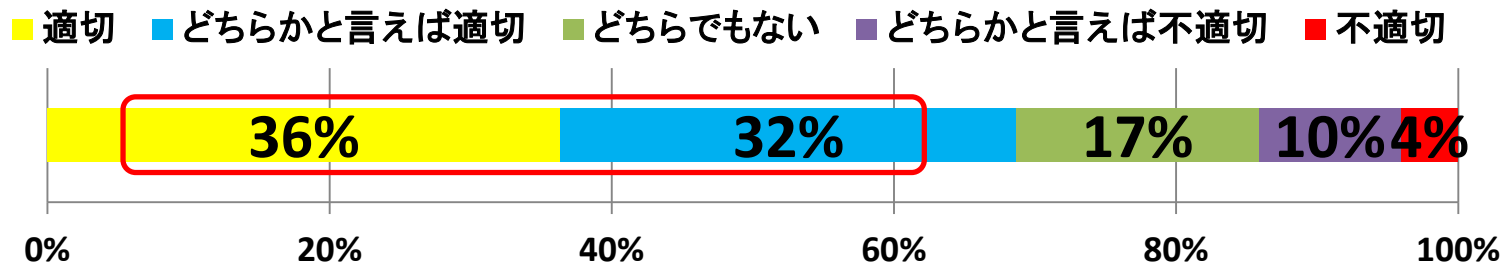
○入場者数の上限設定

※将来的に遺産保全等の観点から人数制限が求められた場合を想定



○保全財源補填のための観光客の負担増加

※昨年4月に製糸場の入場料を500円から1000円に値上げ



○保全費用が更に増加した場合の入場料のあり方

できる限り現行額維持が6割、値上げ許容は3割

(参考)

富士山の環境協力金1000円、屋久島の入山協力金: 日帰りは1000円

(4) 石見銀山と富岡製糸場の比較・分析

- 世界遺産ブランドで初来訪者が多数来訪。リピーターは少ない。
(不安定な需要構造)
- 観光の満足度は高いが、再訪問希望はやや低い。



- 地域の関係者が連携して、リピーターの確保等による長期・安定的な需要の確保に取り組むことが必要。

- ・リピーター化しやすい層に焦点を当てた誘致
- ・観光客の満足度を著しく高める(とても満足させる)
- ・再訪問希望を高める工夫
- ・遺産保全・住民生活への配慮

- それぞれの特性により、具体的な取組内容は異なる。

石見銀山

○再訪問希望を高める工夫

- ・龍源寺間歩はやや見せ場に乏しい。→鉾山町＋食事・買物
- ・観光プログラムの充実（非定番の見所。伝統文化・生活体験）
- ・石見銀山までのアクセス・地区内移動の改善

○山間集落。受入容量が小さい

- 遺産保全・住民生活に、より重点を置いた対応が必要。
高齢者等に利用を限定した小型電気バスの導入

○観光振興に向けた地域関係者による連携体制の整備が喫緊の課題

- ・観光戦略策定のノウハウを有する人材の確保・育成も重要

富岡製糸場

○再訪問希望を高める工夫

- ・ **広大な敷地に明治期の建物が多数立地＝世界遺産に大きな魅力**
 - ぜひ再訪問したい理由では、「**製糸場の素晴らしさ**」が最多(6割)
 - **展示・解説等**の充実で、再訪問希望が**更に増える可能性**
- ・ **公開施設の順次拡大**も再訪問の契機(テーマパーク的な要素)
 - **全面公開の大幅な前倒し**は、資金面・安全面の制約から**困難**
 - 来訪者の**一層の負担増**は、**需要に影響**を及ぼすおそれ
- ・ **周辺市街地の整備・新たな見所の用意。体験・学習プランの充実。**
 - 再訪問の促進要因として、**改善の余地**が大きい。
 - 公共の助成のほか、**まちづくりファンド**の活用も可能
- ・ **他の観光地との連携による魅力の向上**
 - 再訪問希望者の**8割**は**他の観光地とのセットでの旅行**を希望
 - 著名な温泉地のほか、**県内の世界遺産の周遊二ーズ**も存在

○市中心部・平野に立地。敷地も広い。受入容量が大きい。
駐車場の分散配置・交通規制などの渋滞緩和策



観光と遺産保全・住民生活との間で大きな問題はない。
(年間130万人来訪。ピーク時は1日1万4千人)



ピーク時の集中に伴う問題が生じないよう慎重な対処も必要ではないか。しかし、入場者数の上限設定は5割程度の指示。需要の分散・平準化の試みが重要ではないか。

- 地域関係者はリアルな状況認識。関係者間の連携体制の整備も進みつつある。
- ・観光戦略に取り組む人材の育成が重要。
 - ・一般住民の関与をどこまで求めるかの線引きが課題。

3. 実証分析の補強 ～有識者、業界関係者のヒアリング～

(1) 世界遺産と観光振興

(2) 観光振興と世界遺産保全

(3) 世界遺産のインバウンドへの活用

(1)世界遺産登録と観光振興

(有識者、旅行業界の関係者)

- 登録は国内観光客の誘致に極めて大きな効果を発揮
- 時間の経過とともに、集客力は次第に低下
- 地域の関係者が努力しないと、需要は維持できない。



○地域の関係者による話し合いの場の構築

- ・観光客の動向・ニーズを踏まえた対応策の協議

○世界遺産(所在地)のファンの確保

- ・リピーターとして繰り返し来訪。口コミによる宣伝。

○世界遺産を核にした遺産所在地全体の魅力向上

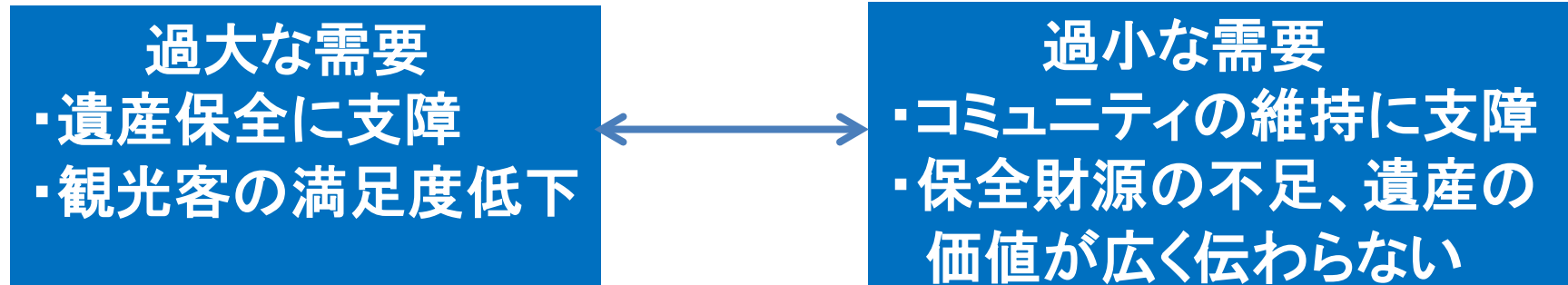
- ・遺産見学＋遺産周辺の散策、食事・買物、生活・文化の体験
- ・遺産所在地に絡めた広域観光ルート

(2) 観光振興と世界遺産保全

(有識者)

○観光客の適正規模

科学的な算出は不可。関係者の協議で決定すべき事項。



○観光客への課金

遺産保全財源にとどまらず、観光客に遺産保全の重要性を認識させる契機ともなる。

(旅行業界の関係者)

○観光は世界遺産保全にとって不可欠の存在。

○世界遺産所在地で保全のためのルールを決めれば遵守

○オーバーユース解消のため、自主規制するのは困難。

(3) 世界遺産のインバウンド観光への活用

(有識者、旅行業界の関係者)

- 訪日外国人について、今後はリピーター化と地方誘導が課題。
地方の観光拠点として、世界遺産を活用できればよい。
- 「世界遺産」のタイトルのみでは、外国人の誘致につながらない。
- 地域の関係者による戦略的な取り組みが必要。
 - ・**世界遺産の価値**(日本の独自性、各国との歴史的な関わり等)と**所在地の魅力**(景観、生活・文化体験、特産品等)を一体的にPR
 - ・**周辺の観光地と連携し**、誘致力をアップ

(在東京のアジア主要国の政府観光局)

- 訪日旅行者には、日本の文化・歴史に関心の高い層も存在。
「世界遺産」のタイトルのみでは、旅行先に選ばない。
- 世界遺産の価値**をコアに、**誘致対象国の人が関心を持つようなストーリー**が必要(その国の文化財と対比、歴史上の関係等)
- 東京、大阪からのアクセス整備が極めて重要。

4.世界遺産所在地の持続的な観光振興のあり方

(1)世界遺産観光に関する課題事項の抽出

(2)持続的な観光振興に向けた対応策

- ①地域関係者による世界遺産観光マネジメントの実施
- ②観光地としてのライフサイクルを見据えた対処
- ③長期・安定需要の確保に向けた戦略的な取組み
- ④観光振興と遺産保全等の調和のための戦略的な取組み

※メジャーでない観光地が世界遺産登録を受けた場合を想定

※日本人の国内旅行に焦点を当てて整理

日本人：旅行者7億人、消費22兆円

訪日外国人：2千万人、消費3兆円

(1)世界遺産観光に関する課題事項

○メジャーでない観光地にとって、世界遺産登録は、国内観光客誘致の起爆剤となるが、需要増は永続しない。

- ・次第に注目度は低下。世界遺産ブランドのみでリピーター化は困難。
- ・国内旅行市場が伸び悩む中で、観光地間の競争は激化



地域をあげて長期・安定的な需要の確保に取り組むことが肝要

○観光振興と世界遺産保全・住民生活の調和が不可欠。

- ・需要の無制限の増加は、遺産保全等に支障。観光客の満足度も低下。
- ・過度の需要抑制は、地域の活性化に支障。地域の遺産保全力も低下。

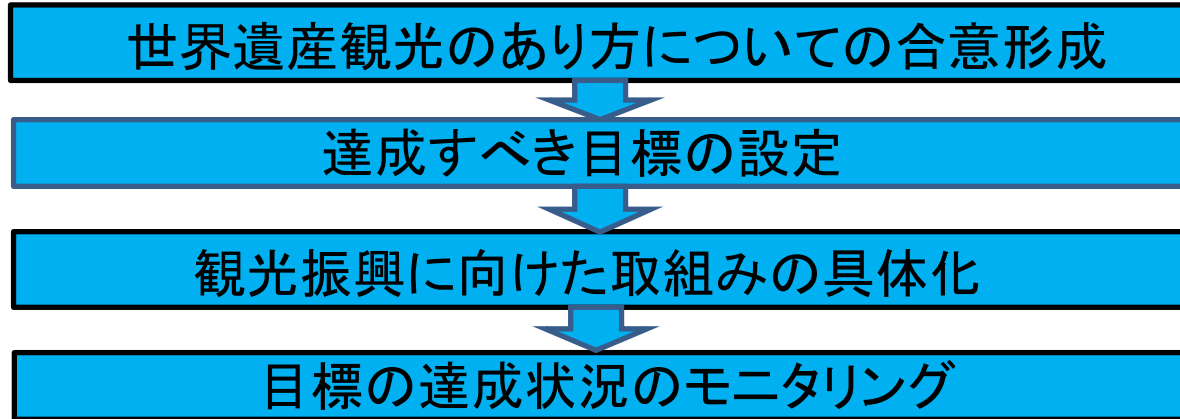


観光振興と世界遺産保全・住民生活を対立的に捉えるのではなく、WIN・WINの関係を構築

(2) 持続的な観光振興に向けた対応策

① 地域関係者による世界遺産観光マネジメントの実施

○ 地域の関係者による連携・協議組織の構築・運営



- ・世界遺産ブランドのみでは需要を維持できないことを十分に認識。
- ・「地域振興」と「観光と遺産保全等の調和」の双方を視野。
- ・他の観光地との広域連携のための交渉も担当

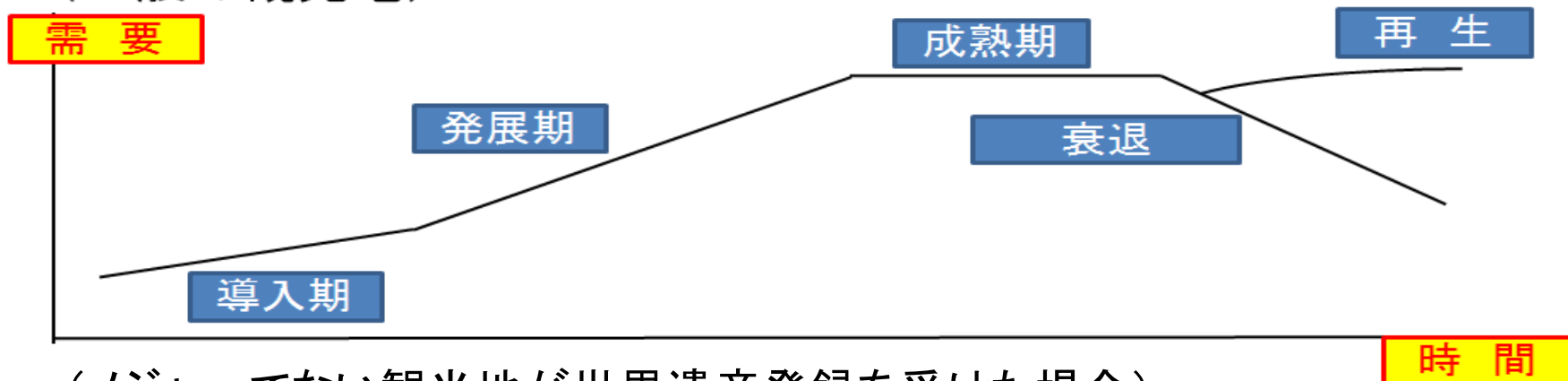
○ 地域リーダー、マネジメントのノウハウを有する実務者など 人材の確保・育成

○ 一般住民についても、観光振興の担い手としての意識付け 住民が親切・世界遺産に詳しい・・・観光客に好印象

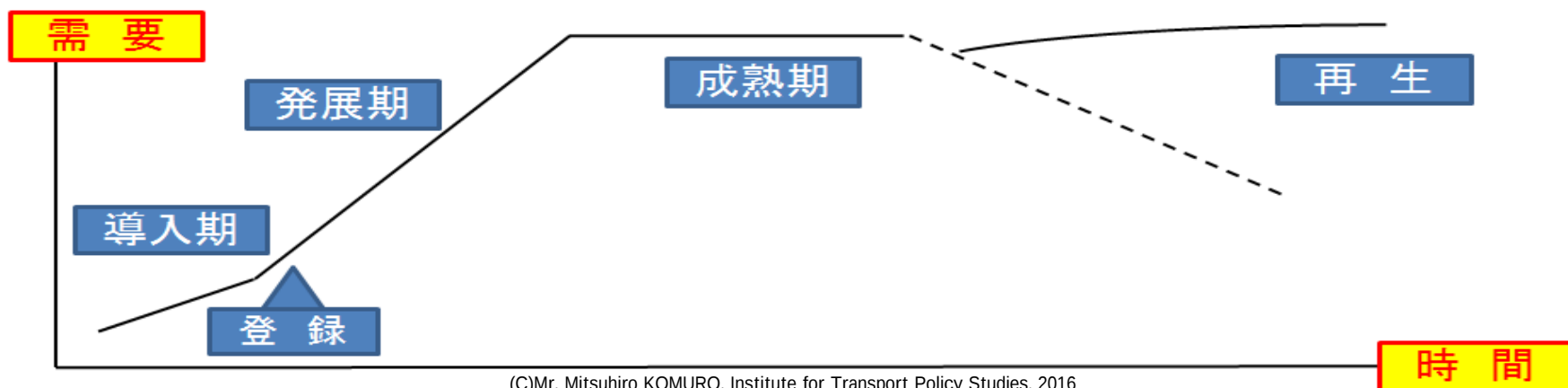
②観光地としてのライフサイクルを見据えた対処

- 早い時期から観光地としての再生＝長期・安定需要の確保に向けたソフト・ランディングに取り組むことが必要。
- 先行登録地域の成功・失敗事例を情報共有できる仕組み・世界遺産(候補)の所在地間の連携、データベースの整備

(一般の観光地)



(メジャーでない観光地が世界遺産登録を受けた場合)



③長期・安定需要の確保に向けた戦略的な取り組み

観光客の動向・意識を定期的に把握



○効果的なプロモーションの実施

例)-マイカーでの来訪が多い→高速道路のSA、道の駅にパンフレットを用意
-歴史・文化に関心の高い層の誘致、口コミによる来訪の促進

○来訪者の満足度・再訪問意欲を高める工夫

例)-世界遺産自体の魅力向上

展示・解説等の充実で知的関心を刺激、公開施設の順次拡大
-世界遺産周辺の散策ルート・見所。体験・学習メニューの充実。
-他の観光地等との連携。連絡バス・乗合タクシーなどアクセスの整備
※取り組み内容の優先順位付けも重要

○再訪問の障害となる要因の除去

例)世界遺産までのアクセス、地区内移動の不便さの解消
観光客案内のための施設・設備の充実

④観光振興と遺産保全等の調和に向けた戦略的な取組み

- ・状況に応じて、利用制限、交通規制、観光客への課金
- ・観光客のニーズを踏まえた柔軟な対応

例) 入場者数の上限設定に理解を得るのが困難

- ピーク時への集中の緩和
- 閑散期に世界遺産関連のイベント・遺産の一部を特別公開

観光客への課金の増加は需要減を招くおそれ。

- 入場料はアップするが、公共交通、食事・買物とのセット割引付きの
共通利用券を導入し、割高感を解消

ご清聴ありがとうございました。